2023 年度「深田賞」受賞者　顕彰理由

大島　洋志（おおしま ひろし）

（1943 年 3 月 26 日生まれ，80 歳）
1965 年　九州大学理学部地質学科卒業
1965 年　日本国有鉄道入社
1987 年　財団法人鉄道総合技術研究所地盤・防災研究室主任研究員
1990 年　同大島研究室長
1993 年　同退職
1993 年　国際航業株式会社　入社
取締役技師長, 取締役技術センター長, 上席フェロー技術センター長を経て, 2015 年に最高技術顧問．現在に至る

大島洋志氏は，1965 年九州大学理学部地質学科を卒業し，同年から日本国有鉄道に勤務し，1987 年に財団法人鉄道総合技術研究所地盤・防災研究室主任研究員，1990 年に同大島研究室長を経て, 1993 年に退職された. 同年に国際航業株式会社に入社し, 取締役技師長, 取締役技術センター長，上席フェロー技術センター長を経て，2015 年に最高技術顧問となり現在に至っている．また，2009 年から 2020 年まで，鉄道総合研究所の協力会社で緊急地震速報に携わる株式会社 ANET の代表取締役社長にも就任し, 2021 年から会長として現在に至っている.

大島洋志氏は，今まで一貫してトンネル建設に関連した地質工学を開拓・実践し，実社会に貢献してきた．同氏が実務としてトンネルに係わるようになった 1960 年代から 1970 年代には，その建設や保守にあたっての地質学の重要性はまだ十分には理解されていない時期であり，地質が原因の事故や難工事も多々起こっていた．そのような時期から，大島氏は様々なトンネルの路線選定から設計, 工事, 環境保全, 防災に至るまでの諸課題に取り組み, 課題解決のために，地質学的知見を活かし，また，新たな方法を創造してきた．その結果, 土木関係者に「新幹線を推進する土木技術者に必要な三大素養の一つに地質学がある」と言わしめた. 同氏のトンネル建設のための地質的貢献は枚挙に暇ないが, 鉄道建設におけるトンネル掘削時の湧水とそれに伴う渇水の問題を地下水収支という観点からとらえて総合的な水文地質調査を体系化したこと，および路線計画段階における応用地質学的知見の重要性を，実務の技術的観点に基づいて明らかにしてきたことは特筆される．その後，これらの考え方は多くのトンネルに反映されてきた．また，同氏の培った経験は，単にトンネルに生かされるだけでなく，様々な応用地質学的課題に生かされてきた.

大島洋志氏は，所属機関にとどまらず，多様な鉄道，道路のトンネル建設に関する委員会委員を務め，これらの路線選定・設計・施工に大きく貢献した．また，一般社団法人日本応

用地質学会をはじめ多くの学協会運営にも多大の貢献をしてきた．学術団体や技術協会等における多数の講習会講師を務め，技術の普及の面からも大きく貢献した．さらに，大学の土木工学科，理学部における非常勤講師を通じて，次世代を育成するとともに学生の視野を広げた．

以上のように，大島洋志氏の応用地質技術者としての技術開発分野の業績，建設現場や有識者の集まりにおける課題の解決の実績，および学協会などの活動を通じた技術者の交流と研鑽の場作りへの主体的取り組み，さらに次世代技術者の教育・指導への多大な貢献は，地質工学の開拓・実践であるとともに，土木工学・建設分野に向けた応用地質学的な考え方の普及・技術継承であり，極めて高く評価される．これらのことから，大島洋志氏が深田賞を贈るにふさわしい候補者であると認め，ここに推薦する．

2023 年 9 月 30 日

公益財団法人 深田地質研究所

理事長 千木良 雅弘